

# 高知県教育委員会 会議録

令和8年6月定例委員会

場所：教育委員会室

## (1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和8年6月17日(水) 13:30

閉会 令和8年6月17日(水) 15:48

## (2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

|     |      |       |
|-----|------|-------|
| 出席者 | 教育長  | 今城 純子 |
|     | 教育委員 | 池 康晴  |
|     | 教育委員 | 小田 通  |
|     | 教育委員 | 森下 安子 |
|     | 教育委員 | 町田 美紀 |
|     | 教育委員 | 弥勒 美彦 |

## (3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

|             |                     |                             |
|-------------|---------------------|-----------------------------|
| 高知県教育委員会事務局 | 教育次長(総括)            | 岡本 幸生                       |
| 〃           | 教育次長                | 濱川 智明                       |
| 〃           | 教育次長                | 蛭子 穰                        |
| 〃           | 教育政策課長              | 三木 直樹                       |
| 〃           | 教職員・福利課長            | 正岡 陽一郎(報告第2号及び付議第4号及び第5号のみ) |
| 〃           | 教職員・福利課企画監          | 越野 正規(報告第2号及び付議第5号のみ)       |
| 〃           | 幼保支援課長              | 市村 留美(付議第6号から第9号のみ)         |
| 〃           | 小中学校課長              | 高橋 励(付議第4号及び第12号のみ)         |
| 〃           | 小中学校課課長補佐           | 高田 誠(付議第12号のみ)              |
| 〃           | 高等学校課長              | 麻植 隆久(付議第2号から第4号のみ)         |
| 〃           | 高等学校振興課長            | 中島 義文(付議第3号及び第4号のみ)         |
| 〃           | 特別支援教育課長            | 谷澤 朗(付議第1号のみ)               |
| 〃           | 生涯学習課長              | 竹村 邦敬(付議第10号及び第11号のみ)       |
| 〃           | 保健体育課長              | 山崎 貴士(付議第10号のみ)             |
| 〃           | 人権教育・児童生徒課長         | 吉村 雅充(報告第1号のみ)              |
| 〃           | 教育政策課課長補佐           | 大前 拓也                       |
| 〃           | 教育政策課市町村支援・委員会担当チーフ | 山岡 由紀(会議録作成)                |
| 〃           | 教育政策課主査             | 吉松 昂徳(会議録作成)                |

## (4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

### 【冒頭】

教育長 6月定例委員会を開催する。

教育次長(総括) (提案説明)

|     |                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育長 | 付議第 5 号、第 7 号、第 8 号、第 10 号は、高知県議会 6 月定例会に提出予定の議案について検討を行うものであるため、付議第 9 号は、高知県議会 6 月定例会に提出予定の議案に関連する内容であるため、付議第 6 号及び第 11 号は、個人の情報を含む議案のため、付議第 12 号は、人事に関する議案のため、非公開の取り扱いとしたいが、賛成の委員は挙手をお願いします。 |
| 各委員 | 全員挙手                                                                                                                                                                                           |
| 教育長 | それでは、付議第 5 号から第 12 号を非公開の取扱いとする。                                                                                                                                                               |

※付議第 5 号及び第 7 号から第 10 号議案については非公開議案であったが、令和 8 年 6 月高知県議会定例会が開会され、議案が公開されたことから、当該議案の会議録は公表するものとする。

【報告第 1 号 非強制徴収債権の放棄について (人権教育・児童生徒課)】

○人権教育・児童生徒課 説明

○質疑

|     |                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 池委員 | 条例により、一定の要件があれば債権を放棄できるということだが、資料 3 ページに掲載されている条例第 14 条第 2 号第 2 項が「略」となっているのは、何か他の要件があるということか。 |
| 事務局 | 第 2 号には他の要件が記載されている。今回は、本議案に関係する第 1 号及び第 3 号のみ記載している。                                          |

【報告第 2 号 令和 10 年度採用（令和 9 年度実施）高知県公立学校教員採用候補者選考審査第 1 次審査について (教職員・福利課)】

○教職員・福利課 説明

○質疑

|      |                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 小田委員 | 来年度から新しく共通問題で実施されるということで、いろいろなメリットがあると思うが、日程的にはこの日が一番早く、共通問題で実施する他県も同日に実施することになっているのか。 |
| 事務局  | 日程は 5 月、6 月、7 月の 3 種類から選ぶこととなっており、この日程が一番早いものである。共通問題で実施する 51 団体が 3 つのうちいずれかの日程となる。    |
| 小田委員 | 日程は国が分けているのか。                                                                          |
| 事務局  | 団体間で話をして、日程が分けられている。                                                                   |

|      |                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小田委員 | 高知県は早いほうに当たったということか。                                                                                                                |
| 事務局  | 希望もしていた。                                                                                                                            |
| 小田委員 | 多くの方に受審していただければ良いと思う。受審者は3回受けられるということか。                                                                                             |
| 事務局  | そうである。また、この51団体以外は独自に作問をしているので、日程が重なっていなければ4回以上受けることも可能である。                                                                         |
| 小田委員 | 日が異なれば何回でも受けられるが、同じ問題は受けられないということか。                                                                                                 |
| 事務局  | そうである。例えば5月8日に実施する自治体は、基本的に同じ問題を使用するので、そのグループに属する団体への併願はできなくなる。                                                                     |
| 池委員  | 四国の他の3県や、中国地方の5県などの状況は、まだ分からないのか。                                                                                                   |
| 事務局  | 具体的には公表できないが、おそらく本県と併願が予想される自治体とは、できるだけ併願とならないように調整をしているところである。                                                                     |
| 弥勒委員 | この5月8日実施分の共通問題があるということか。つまり、この5月8日の共通問題が、別の日程で使用されるということはないわけか。                                                                     |
| 事務局  | そうである。                                                                                                                              |
| 弥勒委員 | 全部で3日間の候補があり、3種類の共通問題があるということか。                                                                                                     |
| 事務局  | そうである。                                                                                                                              |
| 教育長  | 来週、定例記者懇談会があるが、そちらで記者の方々にもこのことをお伝えしようと思っている。何より、日程が早くなるので、皆様に協力をいただくためにも、早く発信していかなければいけないと思っている。また、関西でも実施をすることになっているので、併せて発信していきたい。 |
| 森下委員 | 予備日というのは、どういうものか。                                                                                                                   |
| 事務局  | 何らかの理由で5月8日に実施できない場合に備え、予備日を設けている。                                                                                                  |

|      |                                                          |
|------|----------------------------------------------------------|
| 森下委員 | この予備日は、第2弾の6月の日程と同じか。もし台風等で5月に実施できない場合は、この日になるという理解で良いか。 |
| 事務局  | そうである。                                                   |

【付議第1号 令和9年度高知県立特別支援学校幼稚部・高等部入学志願者取扱要項に関する議案 (特別支援教育課)】

○特別支援教育課 説明

○質疑

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 池委員  | まず、生徒減少により高等学校の受検者もかなり減っているが、高等部の志願者数の増減はどうなっているか教えてほしい。<br>また、高等学校との併願のようなことができるのかを教えてほしい。                                                                                                                                                                                                                          |
| 事務局  | まず1点目の入学者数だが、特別支援学校の入学者数は、年によって多少の増減はあるが、比較的一定数を保っている。近年でいうと100名前後の者が高等部に入学している。<br>ただ、知的障害の特別支援学校については少し人数が増えているので、その人数の増減は私たちも注視しているところだ。知的障害特別支援学級の児童生徒数は大体500人程度と一定数であり、あまり大きく増えてはいないので、この状態はしばらく続くのではないかと思っている。<br>2点目について、高等学校との併願は可能である。特に自閉症・情緒学級、知的障害でも軽度の知的障害の子どもなどについては、高等学校を受検する子どももいるので、それも考慮した日程としている。 |
| 小田委員 | 資料11ページの訪問教育について質問する。今、実際にどれくらいの高等部の生徒がこういう教育を受けられているのか。また、訪問教育とは具体的にはどういうものか。一切学校に登校せず、ご家庭に先生が行かれて学習を支援しているのか。                                                                                                                                                                                                      |
| 事務局  | 訪問教育については、従前と比べてかなり人数は少なくなっている。<br>最近、医療の進歩により、医療的ケアが比較的學校の中で、通学生でも行えるようになってきているので、通学できる子どもは基本的に通学対応となっている。訪問教育は、医療的ケアと障害の状態で、なかなか通学が難しい子どもに限っているので、人数についてはかなり少なくなっている。今年度については、現在、中学部に2名、小学部に4名在籍している。                                                                                                              |
| 小田委員 | 訪問は複数の先生が行っているのか。それとも、1人の先生が行っているのか。教科がいろいろあるので、どのようにチーム支援しているのかを                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                   |                                                                                                                                                  |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局               | <p>聞かせてほしい。</p> <p>授業については1回2時間で、子どもの障害の実態によっても異なるが、基本的には週3回程度の訪問となっている。</p> <p>主担当の担任は決まっているが、チームを組んで複数名で担当する。1回の訪問では1名の教員で対応することが基本となっている。</p> |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | <p>付議第1号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。</p> <p>全員挙手</p> <p>付議第1号を原案のとおり議決する。</p>                                                                        |

【付議第2号 令和9年度高知県立中学校の入学志願者取扱要項及び入学定員に関する議案  
(高等学校課)】

○高等学校課 説明

○質疑

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 池委員 | <p>Web出願ということで、高等学校の入試であれば中学校が対応できるが、小学校の場合は保護者の方が対応されると思うので、この新しい方法をどのように周知していくのか。また、先ほどの説明の中で、他県において合格発表の段階でトラブルがあったとのことだったが、個人情報保護への対策等、もし何か考えがあれば聞かせていただきたい。</p> <p>それから要望として、先ほど県立安芸中学校のところでも説明があったように、今後、児童数はかなり減少していくので、県立中学校の在り方について検討を続けていただきたい。地域の方々とも、こういった意見交換などもしていただきたいと思っている。</p>                                                                                                                            |
| 事務局 | <p>まず、県立中学校のWeb出願システムにおける保護者への周知については、現在業者が決まったところであり、今後、具体的にどういったところまでWeb出願システムでできるかといったことを詰める予定である。その後、当然、小学校の先生方にもそうであるが、小学校を通じてとなるのか、保護者説明会等を開いて直接ご説明するのか決めかねているが、そういったところで周知をする予定である。それから、いろいろな質問等があることが想定されるので、ヘルプデスクといったような形で、相談ができるようなものを設けて、保護者がスムーズに対応できるようにと考えている。できるだけ早く中身を詰めて、周知できるようにしたいと考えている。</p> <p>個人情報についてだが、他県においてもいろいろなシステム上のトラブルといったことは発生している。ただ、個人情報の漏えいに繋がったような事案は聞いていない。合格発表についても、同じ学校から受検して受検</p> |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>番号が並んでいたら、1つ間が空いたのでその子は不合格だと分かってしまうというようなことも、現在では個人情報に当たるのではないかと心配されるので、合格発表の形を変えることを含めた検討をしていきたい。また、それ以外のところでは、セキュリティ面において、登録情報が外に漏れないように、システム会社と綿密に話をしながら、仕様について詰めていきたいと考えているところだ。</p>                                                                                                                                 |
| 弥勒委員 | <p>今回からWeb出願システムで登録するというので、合格発表についてはシステムとアナログを併用するわけだが、出願についてはシステムに絞るということで、システム上で何か問題が起こるリスクは、合格発表の場合は明確にあるのだけれども、出願の登録の場合はそういう心配はあまりないということなのだろうか。</p>                                                                                                                                                                    |
| 事務局  | <p>このシステムについては各県独自の仕様であるので、こういったトラブルが起こるかということは、まだ我々も十分に想定できていない。しかし、他県の状況等も確認する中で、出願上でのトラブルというのはあまり聞いていない。システム上の合格発表では、トラブルがあったという情報はいくつか聞いているところである。</p> <p>ただ、システムのではなく、保護者の入力ミス等が起こる可能性があるので、ヘルプデスクの設置に加え、システム会社と詰めていながら、そのようなトラブルがないように対応していきたいと考えている。</p>                                                             |
| 弥勒委員 | <p>そういった場合はヘルプデスクが即時対応するという体制も、併せて一緒に整備するというので、理解した。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 小田委員 | <p>素朴な疑問だが、Webシステムでの出願に対応できない方がいらっしゃったら、従来どおりの対応ができるのか。例えば、外国籍の方などで、従来の方法を希望する方がいらしたら、その方への対応はどのようにされるのか。</p>                                                                                                                                                                                                               |
| 事務局  | <p>システムでの入力等ができないという方がいらっしゃる可能性は当然あるので、そういった場合には、出願したい中学校に直接来ていただき、一緒に事務担当者と入力するといった対応が必要かと思っている。当然、システムでの入力に長けている方ばかりではないと思うので、一緒に来て、情報を話していただきながら入力をしていくというような対応をしたいと思っている。</p> <p>また、外国人の方については、どこまで対応できるか少し難しいが、やはり県立中学校に入っていただくにあたって、適性検査等を受検するところからすると、一定の日本語の語学力等が求められている。なので、出願に際して入力が難しければ、やはり同じように中学校へ来ていただき、</p> |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   | 補助はさせていただくが、それ以上の何か、こちら側で全てをやるということは、なかなか想定されないかと考えている。                                                                                                                                                                                                                        |
| 小田委員              | あまり日本語が得意ではない保護者がいたとき、英語表記が併記されている必要ないのか。                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事務局               | 今のところ、英語表記はシステム対応がなかなか難しいかと考えているので、やはりそこは中学校に来ていただき、英語の教員がサポートするといった対応になるかと思う。                                                                                                                                                                                                 |
| 小田委員              | そういう個別対応も考えているということか。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事務局               | そこはしていかなければいけないと考える。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 小田委員              | やはり移行期間なので、手厚い配慮が必要かと思うのでお願いします。                                                                                                                                                                                                                                               |
| 弥勒委員              | 別の観点であるが、出願登録や合格発表の確認のシステム化については、全国で同じニーズがあると思うが、各県で独自に開発するのか。国全体としては無駄なことをやっているようにも思える。そういうシステムは統一すれば、全体でのコストを下げることに繋がるのではないかと。そうすれば、既存のシステムを使うだけで済むので、各県のコストが削減できるのではないかと。と思うのだが、いかがか。                                                                                       |
| 事務局               | <p>まさにそういった共通のシステムがあれば望ましいとは思いますが、やはり入試の日程、高知県立高校でいうと A・B・C 日程であるとか、入試の日数が何回もあるとか、各県によって仕様が異なってくるので、なかなか統一のものにすることが難しい。</p> <p>大学共通テストのように、統一された測れるものがあれば、統一のシステムもできるかと思うが、現段階では各県がそれぞれシステムを作っている状況である。</p> <p>独自システムの導入は、一昨年は 20 都道府県程度だったものが、もう 30 都道府県以上は導入されていると聞いている。</p> |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | <p>付議第 2 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。</p> <p>全員挙手</p> <p>付議第 2 号を原案のとおり議決する。</p>                                                                                                                                                                                                 |

## ○高等学校課 説明

## ○質疑

|      |                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 池委員  | <p>こうちフロンティア募集で、昨年、県外からもたくさん志願していただき、良い結果が出たと思う。良い取組なので中山間の高校も助かっていると思う。県外の生徒がWeb出願する方法は、募集要項などがホームページに掲載され、それを志願したいと思っている者が自ら閲覧して分かるということか。</p>                                                                                                       |
| 事務局  | <p>そうである。オンラインで操作順序が分かる動画を掲載することとしており、それを見ていただくとともに、不明な点があればヘルプデスクに問い合わせをしていただく。高校については、他県においても中学校を通しての出願となるので、中学校の先生にも一定操作をしていただくようになる。</p>                                                                                                           |
| 小田委員 | <p>Web出願について、中学生は、おそらく学校で先生の指導の下で実施されるので、出願については心配ないと思う。ただ、今までは県の収入証紙を貼って出願していたので、学校側が納められたかどうかすぐに分かった。Web出願となると、手数料は、家庭が直接コンビニエンスストア等で払うということになっているが、もし期限までに納められてない場合は、学校側にも知らされるのか。支払いが負担となる家庭もあるので、その辺りが心配である。</p>                                  |
| 事務局  | <p>まず志願者がシステムに入り、それを使えるようなID・パスワード等の設定を行うようになる。それから志願者の情報を登録し、志願先の登録を行う。その後、入学手数料の納付ということで、各家庭に入学料を、コンビニエンスストアであるとかクレジットで決済をしていただく。そこまで手続きができて初めて各中学校が出願の承認を行うようになる。その段階で、もし中学校が受検することを聞いているのに、承認ができないような状態であれば、手数料が入っていないのではないかということの確認ができるようになる。</p> |
| 小田委員 | <p>ということは、これまで同様、手数料が納付されて初めて出願となるということか。</p>                                                                                                                                                                                                          |
| 事務局  | <p>そうである。手数料が納付され、中学校で校長が承認した段階で出願完了となる。</p>                                                                                                                                                                                                           |
| 小田委員 | <p>学校からご家庭へ、納付期限が迫っている等の連絡ができるだろうか。</p>                                                                                                                                                                                                                |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局  | 可能である。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 弥勒委員 | 昔であれば受検票が発行されたように思うが、Web出願では2次元バーコードのようなものがWeb経由で来るのか。そうであれば、保護者のスマートフォンに送られてきて、そのスマートフォンを持って行かないと本人は受検ができないようなことになるのか。そんな初歩的な欠陥はないと思うが、どのようなシステムになっているのか。                                                                                                                   |
| 事務局  | <p>中学校で出願を承認され、高校でも承認された後に、登録したメールアドレスに対して、受検可能というメールが届く。そのメールを通じて受検票を印刷できるようになっているので、各家庭で印刷していただく流れとなる。</p> <p>家庭にプリンターがないということであれば、コンビニエンスストアで印刷することができる。それも難しいようであれば、中学校側で確認していただき、中学校で出力することもできる。紙で受検票を持参してもらうことはこれまでと同様である。受検票の顔写真は電子で貼るようになっており、顔写真も番号も受検票で確認ができる。</p> |
| 弥勒委員 | 結構、ハードルがあると感じる。理解した。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 池委員  | <p>Web出願を実施する最初の年なので、様々なトラブルへの対応を想定していたほうが良いと思う。例えば、中学生に責がなく、出願期間中に受検できなかった場合があったときの対応なども検討しておいたほうが良いのではないかと。</p> <p>中学生に全く責がなく、保護者や教職員がうっかりしていて登録できなかったなどということがあったとき、全く受検できないのかどうかも含めて、検討したほうが良いかと思う。子どもたちのための入試制度なので柔軟に考えていただきたい。要望である。</p>                                |
| 事務局  | <p>子どもたちに責がないケースも、もしかしたら起こりうるかと思う。初めてのことで、システムに登録されたと思っていたができていないということも、もしかするとあるかと思うので、そういった場合に柔軟に対応できるような方法を考える。</p> <p>その生徒だけ出願システムに登録できる日を少し変えるなどということ、システム会社とも考えている。</p>                                                                                                 |
| 町田委員 | 最近の家庭にプリンターはあるのか。私も仕事ではもちろん使うが、家にはない。スマートフォンしか持っていないという方も多いので、コンビニエンスストアで出力などというのは普段使っていたらできるが、そうだと難しい。学校でサポートするなどしないと大変かなと思う。                                                                                                                                               |

|                   |                                                                                              |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局               | 現在は、家庭でプリンターをあまり使わないというのが一般的かと思うので、やはり中学校には、家庭で出せないような生徒がいたら、学校で印刷をしてくださいということはお伝えしたいと思っている。 |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第3号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第3号を原案のとおり議決する。                                   |

【付議第4号 令和7年度高知県教育委員会施策に関する点検・評価に関する議案

(教育政策課)】

○教育政策課 説明

○質疑

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小田委員 | <p>A評価である(1)－②から分かるように、学級の友達との間で話し合う活動が活発にされているという子どもたちの回答は、とても対話的・協働的な学びができているということだと思うし、そういうことを通じて、子どもたちは学力を身につけていくことができると思う。今、対話型AIの活用が進んでおり、DXの指定校も設けてやっているが、少し危惧するのは、対話型AIを使っていく中で、気をつけていないと、学級の友達がAIになったら大変だと思っている。そうすると、逆に学力が上がらないのではないかなというような危惧を持っている。</p> <p>指定校の取組はこれから広げられていくと思うが、対話型AIの活用について、この(1)－②の指標の数値が落ちないような活用というのは大事かと思うので、指定校等において、この数値の状況も注意して見ていかないといけない。対話型AIの活用によって学力が落ちたら元も子もないということになるので、そこはお願いしたい。</p> |
| 事務局  | <p>対話型AIの活用を、1年、実証研究で進めてきた中で、自身の分からないところが、対話型AIを活用することで効果が上がってきているという学力面の状況であるとか、家庭学習の効果等も出てきているところは確かである。しかしご指摘いただいたように、それだけに頼りすぎてもいけないところは当然あるかと思うので、組み合わせで効果的に活用していくことを、この実証研究の中では大事にしている。教師の指導としっかり組み合わせることも併せて、成果と課題をしっかり共有しながら、充実していきたいと思っている。</p>                                                                                                                                                                            |
| 小田委員 | <p>いわゆるソクラテス型のAIを使うのは賛成で、それが子どもたちの学</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>習効果につながるととても良いと思っているので、ぜひ、リスク的なところができるだけ小さくなるようにしていただきたい。対話型生成AIを活用することで人間同士の対話的な学びがどうなるのかという辺りは、指標を検討してアンケートなどで検証していく必要があるかと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 池委員  | <p>点検評価でC評価になっているものが25項目あり、資料にも3つ例があるが、これらはこれまでも点検してきたものがあると思うし、前の計画でも似たようなものが目標値であったものもあると思う。これらは連続してC評価なのか、新たにC評価になっているものがあるのか、もし分かれば教えてほしい。</p>                                                                                                                                                                                                                      |
| 事務局  | <p>令和6年度のC評価の数は約20個だったので、令和7年度は少し増えている状況にはある。</p> <p>これは積み重ねでやっていく数字であるので、おそらく前年度はとてもよかったけれども今年度急に悪くなった、という話ではないものと思っている。これまでの継続的な取組を、今年さらに力を入れていくというところを掲げているので、そこをケアしながらやっていかなければいけないという思いである。</p>                                                                                                                                                                    |
| 池委員  | <p>質問したのは、結局、いつまでたってもC評価になるような内容の事象について、目標の立て方がそもそも間違っているのか、あるいは打っている施策に効果がないのか、その辺りをしっかり確認していただき、施策をガラッと変えてみるというようなことを検討していただけたらと思う。</p> <p>あまりに低い目標値にすることは、世間の方に疑問を抱かせてしまうかもしれないので、ある一定のところまで上げているのかもしれない。しかし、やはり目標にした以上は達成していかないといけないものだと思うし、学校の教職員も「これに向けて頑張ろう」と思うような数字でないといけないのではないか。教育委員会の施策等も、点検を受けて見直しをしないと、せっかく多くの時間をかけて評価や発表をしていただいているので、ぜひ生かしていただきたいと思う。</p> |
| 事務局  | <p>おっしゃるとおり、長年、改善が必要となっているものについては、事務局の中でしっかり共有し、次年度どういう施策を打っていくのか検討する際に、現状をよく見ながらしっかり考えていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 森下委員 | <p>全体的なところではないが、この「主な指標」で、総合教育会議でも言ったが、数が少なくなっている高知県の大事な宝である子どもたちを、学校だけではなく、地域でいかに育てていくかという視点がとても大事だと思っている。そう考えると、今回(74)－③「コミュニティ・スクール等の取組で、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」という指標がA評</p>                                                                                                                                                                                            |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局  | <p>価となっていることはとても良かったと思う。</p> <p>しかし、他の指標は割と数値的な評価だが、この指標は主観的な評価になっている。なので、地域や保護者がどれだけ活動に参加したかという実態があまり見えないが、その数値も、もしかしたら上がっているのではないかと感じる。その辺りはどうか。</p> <p>確かにこれは、あくまでもアンケート上の回答の評価となっている。主観的な評価にとどまるものはなるべく見直しをしようということで、今年の年次改訂でもいくつかさせていただいたが、今、直ちに具体的なものをお示しできず申し訳ないが、おっしゃるところは我々もよく考えているところである。なので、実際に客観的に見て、どうかということが測れる指標の設定の仕方を協議していきたいと考えている。</p>                                                                                    |
| 森下委員 | <p>学校もとても頑張っていると思う。実態の数値で出たほうが、地域にも示しやすいのではないかと。ぜひ、そういう工夫をしていただけたらと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 弥勒委員 | <p>全国平均との比較はないのか。高知県の結果が全国平均と比べてどうなのかというところに興味があるが。</p> <p>それから、C評価になっているところを、B評価も含めてかもしれないが、改善しようとするのであれば、何が阻害原因になっているのかという、真の原因までさかのぼった上で対策を打つことが必要だと思う。そういうアプローチが必要ではないか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局  | <p>まず、全国平均との比較で申し上げますと、いくつかの指標は全国学力・学習状況調査等の数字から取ってきているので、例えばお話をいただいた（１）－②の指標については、資料 21 ページにおいて全国平均も記載しており、令和 7 年度「できる」と回答した児童生徒が全国並み、または全国平均より少し良い数字であることがご覧いただける。</p> <p>もちろん、地域の独自性の部分もあるが、全国と比べたときに劣らない教育環境を作っていくことが重要な使命だと思っているので、そういった視点も踏まえながら、チェックしていきたい。</p> <p>それから、なぜこういう結果になっているのかという分析について、それぞれ指標において、状況や評価の理由等を資料にも掲載している。それぞれの数字だけをなぞるというよりも、先ほどの池委員のご指摘にもあったが、なぜその状況が続いているのかという点も、せっかく取っている数字なので活用し、深く考えていく必要があると思っている。</p> |
| 弥勒委員 | <p>他の国と比較するなどというところにも強い興味がある。皆さん大変忙しいので、なかなかそこまで手を広げるのは難しいかと思うが、そういう比較から、高知県としてはどういう施策を取るべきなのかというヒントも</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 町田委員              | 生まれてくるのかなとも思う。<br><br>データは非常に貴重だと思う。例えば、地域みらい留学等を活用した県外入学者がとても増えていると思うので、これが5年・10年とどんどん増えていった場合には、一体どういう影響が高知県にはあるのかというようなことも、ただ増えているという捉えだけではなく、未来がどう変わるのかなど数字で多少読めると思うので、そういうところまで踏み込んでやってみてはどうか。C評価に対しても、海外や全国の事例と照らし合わせるなどして、その結果等も皆で共有できると、そこから見えることも多くあると思うので、すごく良いと思う。 |
| 事務局               | おっしゃるとおりである。例えば、在校生のうち、地域みらい留学で県外から入学した生徒のほうが多いのではないかなという学校も実際に見られてきているところである。それが何を意味しているかについて、本日いただいているご意見を全て通じて、単に作業的にやるだけではなく、使えるものとして生かしていきたいと考えている。                                                                                                                      |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第4号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第4号を原案のとおり議決する。                                                                                                                                                                                                                    |

【付議第5号 職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例議案に係る意見聴取に関する議案 (教職員・福利課)】

○教職員・福利課 説明

○質疑

【非公開】

|                   |                                                            |
|-------------------|------------------------------------------------------------|
|                   | 【質疑等なし】                                                    |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第5号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第5号を原案のとおり議決する。 |

【付議第6号 高知県幼保連携型認定こども園審議会委員の委嘱議案 (幼保支援課)】

○幼保支援課 説明

○質疑

【非公開】

|                   |                                                            |
|-------------------|------------------------------------------------------------|
|                   | 【非公開議案】                                                    |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第6号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第6号を原案のとおり議決する。 |

※委員名簿は別紙のとおり

【付議第7号 高知県認定こども園条例等の一部を改正する条例議案に係る意見聴取に関する議案 (幼保支援課)】

【付議第8号 高知県指定障害児通所支援事業者等が行う障害児通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例議案に係る意見聴取に関する議案 (幼保支援課)】

【付議第9号 高知県認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則議案 (幼保支援課)】

○幼保支援課 説明

○質疑

【非公開】

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 池委員  | <p>昨年度、越知町の認定こども園を視察させていただき、素晴らしい施設を見せていただいた。県内にどれぐらい認定こども園があるのか。</p> <p>それと、認定こども園に変わって、どのようなメリットがあるのか。それからデメリットはないと思うが、課題等がもしあれば、併せて聞かせていただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                   |
| 事務局  | <p>認定こども園には、「幼保連携型認定こども園」、「幼稚園型認定こども園」、「保育所型認定こども園」、「地方裁量型認定こども園」の4パターンあり、令和8年の段階で合計48園ある。そのうち、幼保連携型認定こども園が21園である。</p> <p>認定こども園のメリットについては、保育の部分と、幼児教育の部分が一緒になっているということで、0歳児から5歳児クラスまで、保育・教育の充実した環境が提供できるということがメリットになっている。</p> <p>課題としては、児童福祉に関する部分と学校に関する部分について、別々にいろいろな規則等があり、双方のより厳格な制度設計が求められている。その分、働かれている方自体は、そういう中で理想を持って両方しっかりやっているという形で働いていただけているものと思っている。</p> |
| 小田委員 | <p>新しく規定された主務保育教諭という職だが、この職が新しく追加された背景や目的などが分かれば教えていただきたい。また、おそらく学級編制基準は、高知県は子どもが少ないので、法の基準を満たしているのではないかと想定されるが、職員配置基準については、一応、経過措置がある</p>                                                                                                                                                                                                                              |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>が、高知県の認定こども園はどういう状況なのかを教えてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事務局  | <p>主務保育教諭については、学校現場と同じように給特法の改正に基づき、働き方改革の一環として、学校内での課題に対応するため、調整ができるような職員を配置するという意味合いでつくられた職種である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事務局  | <p>主務教諭が学校現場に置かれるように、学校教育法の改正があったので、それに合わせてということだと推察する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 事務局  | <p>あと、学級編制基準の引下げについては、35 人学級から 30 人学級ということであるが、現時点では一部のクラスでは年間を通したところで若干超えることがある園が数園ある。そこについて、経過措置が設けられている期間内の対応をお願いしていきたいと思っている。</p> <p>職員配置基準の、3 歳児 15 人に対し 1 人先生を置かないといけないという部分については、令和 7 年 7 月時点で国が全国照会をかけており、全国の中で配置基準が守られている施設割合が 97.2%まで上がったということで、今回、「当分の間」というのを「令和 10 年 3 月 31 日」までにしたというような経緯がある。</p> <p>同調査内容では、県内で配置基準を満たしていない施設が 2 園あった。その 2 園について、現時点では 1 園は少し難しそうであるが、もう 1 園はすでに解消しており、この経過措置の期間内では対応ができるのではないかとということである。</p> |
| 森下委員 | <p>「児童対象性暴力等の防止」について、非常に大事な改正点だと思う。これに関しては、令和 8 年 12 月 25 日から施行ということで、準備期間があるので少し遅くなっているかと思う。「犯罪事実確認その他の必要な措置を講じなければならない」ともあるが、例えばどういう準備をしないといけないから遅くなっているのかというところを教えてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事務局  | <p>「児童対象性暴力等の防止」に関しては、いわゆる「日本型 DBS」が導入されることになっており、子どもに対して一対一で関わるような仕事に就く者には、原則として戸籍を提出させ、それに基づいて国で照会するシステムを準備していると聞いている。</p> <p>基本的には、こども家庭庁が、提出されたものを法務省に照会して、犯歴の事実があるかどうかを確認して、雇用する側の事業者に対して返していくというような仕組みがとられている。</p> <p>基本的には、現に働いている人も含め、おそらく 3 年以内の間に確認し、新しく採用する人については、原則として採用する前に確認すべき仕組みになっている。そのようなチェックのプロセスが入ってきているのではないと思う。</p>                                                                                                   |

|                   |                                                                                             |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 森下委員              | そのために、期間が必要ということか。                                                                          |
| 事務局               | このチェックの仕組みやマニュアルなども、国のほうで準備をしているであろうし、この「こども性暴力防止法」の施行が令和8年12月25日になっているので、それに合わせてということかと思う。 |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第7号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第7号を原案のとおり議決する。                                  |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第8号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第8号を原案のとおり議決する。                                  |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第9号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第9号を原案のとおり議決する。                                  |

【付議第10号 令和8年度高知県一般会計補正予算に係る意見聴取に関する議案

(教育政策課)】

○教育政策課 説明

○質疑

【非公開】

|      |                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小田委員 | 顕彰動画をととても楽しみにしている。高知県が輩出した偉大なコメットハンターなので、ぜひ子どもたちやご家庭でも見ていただきたいが、まずは理科の先生に見ていただきたいと思う。Webを見ない方もいると思うので、理科の研修の際などにぜひ紹介していただきたいと思う。よろしくお願いします。 |
| 事務局  | 教育センターとも連携して、活用できるようにしたい。                                                                                                                   |
| 弥勒委員 | 「コメットハンター」という表現について、皆が理解できるのだろうか。なじみのある言葉であれば良いが。「コメット」とは「すい星」だろう。知っている方は知っているだろうが、少し分からない方もいるかと思う。                                         |
| 事務局  | 伝わりやすさも意識しながら動画を作成したい。                                                                                                                      |

|                   |                                                                  |
|-------------------|------------------------------------------------------------------|
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第 10 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第 10 号を原案のとおり議決する。 |
|-------------------|------------------------------------------------------------------|

【付議第 11 号 高知県立図書館協議会委員の任命等議案

(生涯学習課)】

○生涯学習課 説明

○質疑

【非公開】

|                   |                                                                  |
|-------------------|------------------------------------------------------------------|
|                   | 【非公開議案】                                                          |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第 11 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第 11 号を原案のとおり議決する。 |

※委員名簿は別紙のとおり

【付議第 12 号 元教職員の退職手当支給制限処分について

(小中学校課)】

○小中学校課 説明

○質疑

【非公開】

|                   |                                                                  |
|-------------------|------------------------------------------------------------------|
|                   | 【非公開議案】                                                          |
| 教育長<br>各委員<br>教育長 | 付議第 12 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。<br>全員挙手<br>付議第 12 号を原案のとおり議決する。 |

(5) 議決事項

付議第 1 号から第 12 号

原案どおり議決